

# 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

## 山口県

### ●地域における現状・課題

- ・本県の公立中学校の部活動を取り巻く状況は近年大きく変化しており、公立中学校の生徒数は、今後も少子化により減少が予想
- ・地域によっては部活動の小規模化が進み、既に、団体競技等では、学校単位の充実した部活動の維持が困難になっているケースが増加
- ・学校部活動では支えきれなくなっている中学生のスポーツ環境について、今後は学校単位から地域単位での活動に移行し、子どもたちの体験格差を解消
- ・地域クラブ活動の運営団体等の体制整備や指導者となる人材の確保、処遇改善、生徒の移動手段等、地域でスポーツ活動が実施できる環境の構築が課題

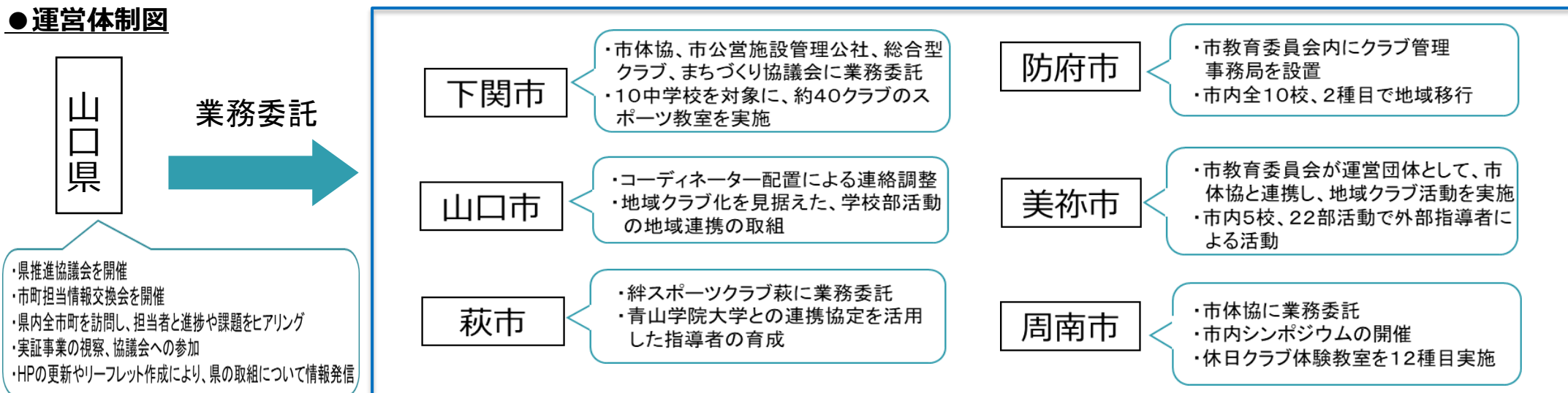
### ●取組事項の概要

- ・やまぐち部活動改革推進協議会の開催により、地域の実情に即した取組の方針をはじめ、背景や方向性、具体的な取組の内容、見込まれる効果等について協議
- ・国ガイドラインを踏まえ、知事部局と県教育委員会の共同で、地域クラブ活動の要件の例やモデル・イメージを盛り込んだ、部活動の地域移行に係る県方針を策定
- ・山口県部活動の地域連携・地域移行に係る指導者研修会の開催や広域人材バンク及びポータルサイトの設置による地域移行体制の構築に対する支援

### ●取組の成果、特に工夫した点等

- ・部活動の地域移行には、知事部局と教育委員会の役割分担と一体的な取組が不可欠であることから知事部局と県教育委員会をはじめ関係課の連携を強化
- ・県方針は、市町及び県協議会において意見聴取を行うとともに各分野の専門家からの意見を反映し、パブリック・コメントを行い、幅広い意見を参考にしつつ策定
- ・指導者研修会では、地域スポーツクラブ活動アドバイザー事務局より講師を派遣依頼するとともに、人材バンクの設置による効果的な人材確保のため、市町との連携やスポーツ庁の作成した研修動画を活用

### ●運営体制図



# 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

## 山口県下関市

### ●地域における現状・課題

・本市においては、22校の公立中学校があり、生徒数5,726人で226部活が活動している。その中でも、単独校で部活動が成り立つ学校と、既に複数校で活動しないと成り立たない学校が生じている。要因としては、少子化によるもののほか、近年、クラブチームが設立され、競技志向の強い生徒等は、クラブチームに加入し、学校部活動に入らない状況である。それらを踏まえ、今後、地域格差が生まれないよう新たなスポーツ活動の環境を整備していく必要がある。

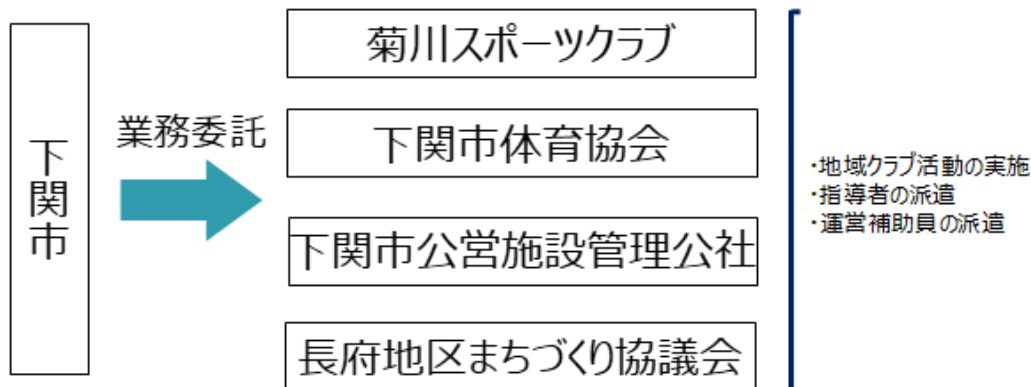
### ●取組事項の概要

・取組としては、当面の間継続されるであろう学校部活動との競争を避けるため、地域クラブとして大会に参加することを目的としない、体験を主体としたスポーツ教室に近い、レクリエーション的な活動を行うことで「運動したい全ての子どもたちが参加可能で、競技力向上のみを目的としない多様な運動機会を確保する」ことを目指す。

### ●取組の成果、特に工夫した点等

・アウトドアスポーツやレクリエーション種目を含め、1つのクラブにおいて複数の種目が体験できる「マルチクラブ」として活動することで、運動部活動に加入していない子どもたちの掘り起こしを行った。

### ●運営体制図



### ●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：総合型地域スポーツクラブ運営型
- (2) 運営主体：菊川スポーツクラブ
- (3) 種目：スナッグゴルフ、バレーボール、サッカー、バドミントン、野球 他
- (4) 指導者の主な属性：地域スポーツ団体関係者
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：2回
- (6) 主な活動場所：拠点校の体育施設
- (7) 主な移動手段：保護者等による送迎
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：無料
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1,850円又は1,200円／運営補助員800円

# 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

## 山口県山口市

### ●地域における現状・課題

- 市立中学校17校が広大な市域に点在し、地域によって学校規模が様々である。少子化による学校規模の縮小や部活動数の減少のため、生徒の選択肢が少なくなると同時に、学校規模にかかわらず部活動の小規模化が進み、学校単位での充実した部活動の維持が困難な状況になっている。したがって、中学校ごとの現状を把握し、異なる学校規模等を考慮した形態を構築し（担い手の確保や移動手段等）、新たな地域スポーツ環境の整備方法を検討する必要がある。
- 中学校の教職員に対するアンケート結果から、中学校の教職員の約66%は、「報酬が支払われても地域クラブ活動に関わりたくない」と考えおり、教職員以外の指導者の確保が大きな課題である。

### ●取組事項の概要

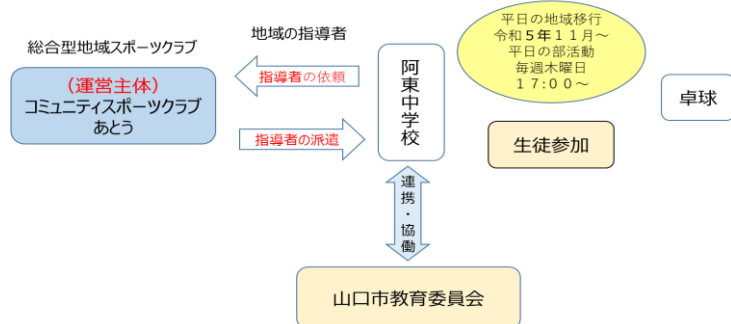
- 児童、生徒、保護者、小・中学校の教職員、スポーツ・文化芸術団体を対象としたアンケート調査を実施し、地域クラブ活動への移行についての現状やニーズ把握を行った。
- コーディネーターが全市立中学校を訪問し、部活動の現状と地域クラブ活動の在り方についてヒヤリングを実施した。
- 「山口市中学校部活動改革推進協議会」を立ち上げ、アンケート結果についての共通理解を図り、地域移行の在り方について意見を集約し、「山口市中学校部活動の地域クラブ活動への移行に関する推進方針」を策定した。
- 実証事業として、阿東中学校で休日の部活動の地域連携に係る取組を実施し、11月からの卓球部の平日部活動（毎週木曜日17:00～18:00）の地域移行開始につなげた。阿東中学校での取組について、生徒・保護者・教職員・地域指導者を対象としてアンケート調査を実施し、検証した。
- 令和4年11月に市内にある3大学、市商工会議所、銀行、本市で構成する「やまぐち地域共創プラットフォーム」を設立し、その取組の1つとして、部活動の地域移行を位置づけ、運営団体の体制整備や人材確保など、持続可能な運営ができる組織づくりの検討を進めている。今年度は、3大学の担当者から、中学校部活動や地域クラブ活動の指導者として大学生などを活用するための条件や大学施設の活用等についてヒヤリングを行った。

### ●取組の成果、特に工夫した点等

- 学校部活動の地域連携の取組をととして、生徒・保護者・教職員・地域指導者の信頼関係が構築できたことで、地域クラブ活動への移行が開始できたこと。
- アンケート調査により、地域指導者による指導の良さと課題が明らかになったこと。
- コーディネーターによる聞き取り調査や「山口市中学校部活動改革推進協議会」の設立等により、様々な立場の意見を取り入れて「山口市中学校部活動の地域クラブ活動への移行に関する推進方針」を策定できたこと。
- 条件が整えば、市内にある3大学の大学生が地域クラブ活動の指導者になることや大学施設を活用すること等、連携の可能性があることが明らかになったこと。

### ●運営体制図

（実証事業）



### ●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）（令和5年11月～）

- （1）運営類型：総合型地域スポーツクラブ運営型
- （2）運営主体：総合型地域スポーツクラブ「コミュニティスポーツクラブあとう」
- （3）種目：卓球
- （4）指導者の主な属性：地域の指導者
- （5）1か月あたりの平均的な活動回数：4回程度（毎週木曜日）
- （6）主な活動場所：阿東中学校
- （7）主な移動手段：スクールバス、徒歩
- （6）1人あたりの参加会費等（年額）：0円/年
- （7）1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1,850円

# 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

## 山口県萩市

絆スポーツクラブ萩を運営団体兼実施団体として成長を目指し、青山学院大学等と連携し、スポーツを通じた持続可能な「まちづくり・ひとづくり」を目指す。

青山学院大学陸上部等と協力し、スポーツの力で世代や地域を超えた交流を広げ、つながりを深めながら持続可能なスポーツを通じたまちづくり・ひとづくりを進める。

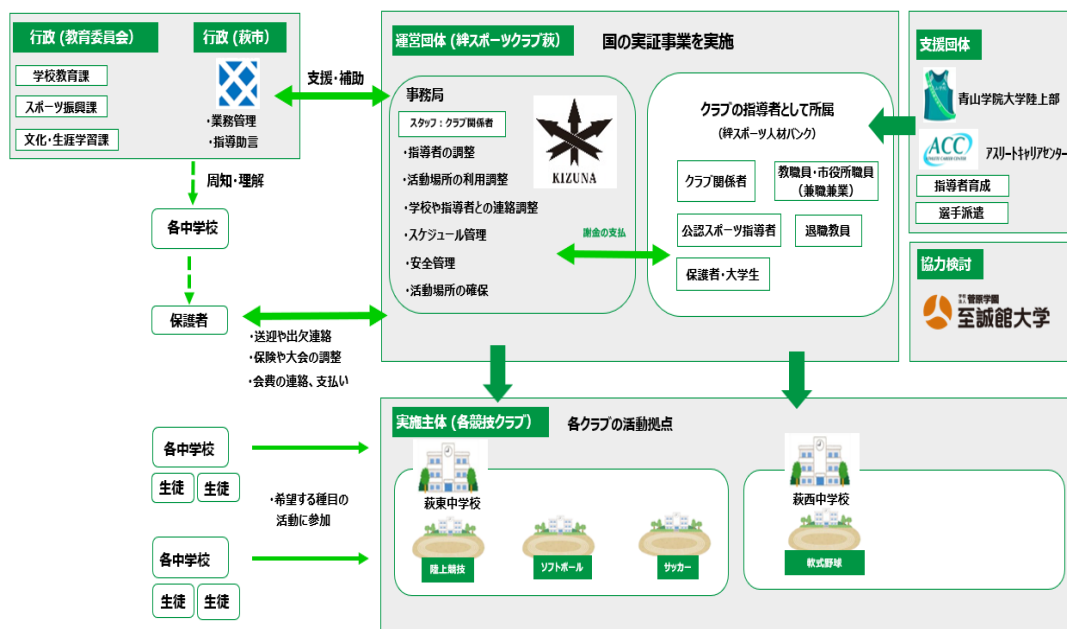
### ●地域における現状・課題

- ・少子化の進行により、現状の中学校部活動を維持することが難しくなっていくことが見込まれる。
- ・地域クラブ地域活動の受け皿、スポーツ指導者の確保が急務である。
- ・本市は広域なため、活動場所までの移動方法が確立できていない。

### ●取組の成果、特に工夫した点等

- ・「絆ランニングクラブ萩」を4月から立ち上げ、陸上競技の受け皿を創出。小学生から高校生まで約30名が入会し、多世代交流による活動が実施できている。
- ・保険加入はスポーツ安全保険を活用し、（800円/年）低廉な価格で安全に運営ができた。
- ・青山学院大学陸上部のカリキュラムを指導者研修会として開催し、安心安全にクラブ運営ができる指導者育成に努めた。
- ・学校教員が指導者として関わることで、スムーズに学校施設を活用させてもらうことができた。ソフトボール体験会では雨天となりブルペンを活用した。

### ●運営体制図



### ●取組事項の概要

- ①官民学が連携し、スポーツによる持続可能なまちづくりを目指し連携協定を締結。
- ②青山学院大学陸上部が開発した指導者育成メソッドを指導者研修会として開催。
- ③陸上競技、ソフトボール、サッカー、軟式野球のクラブ化に向けた取り組み。

※陸上・・・クラブ化、ソフトボール、サッカー・・・体験会、軟式野球・・・練習会



指導者研修



陸上クラブ



ソフトボール体験会



軟式野球練習会

### ●地域クラブ活動の概要

- (1) 運営主体：一般社団法人 絆スポーツクラブ萩
- (2) 種目：陸上競技、ソフトボール、軟式野球
- (3) 指導者の主な属性：教員（兼業）、公務員、大学生、スポーツ推進員等
- (4) 1か月あたりの平均的な活動回数：陸上、ソフトボール（週2回）  
軟式野球（月2回程度）
- (5) 主な活動場所：萩ウェルネスパーク、学校施設、社会体育施設
- (6) 主な移動手段：保護者移送、生徒による個人移動
- (7) 1人あたりの参加会費等（年額）：約24,000円/年～約36,000円/年
- (8) 1人あたりの保険料：生徒800円/指導者1,450円

# 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

## 山口県防府市

### ●地域における現状・課題

- ・指導者と受け皿の確保 地域の人材は勤務などの関係で難しい状況にある。中体連の大会に出場するための資格を有する人材が少ない。
- ・活動場所の調整 校舎等学校施設を使用する場合は、学校施設等の管理に係る規定等を見直す必要がある。
- ・保護者の費用負担 指導者への謝金等の受益者負担が学校部活動に比べ増加する。保護者の意識改革も課題である。

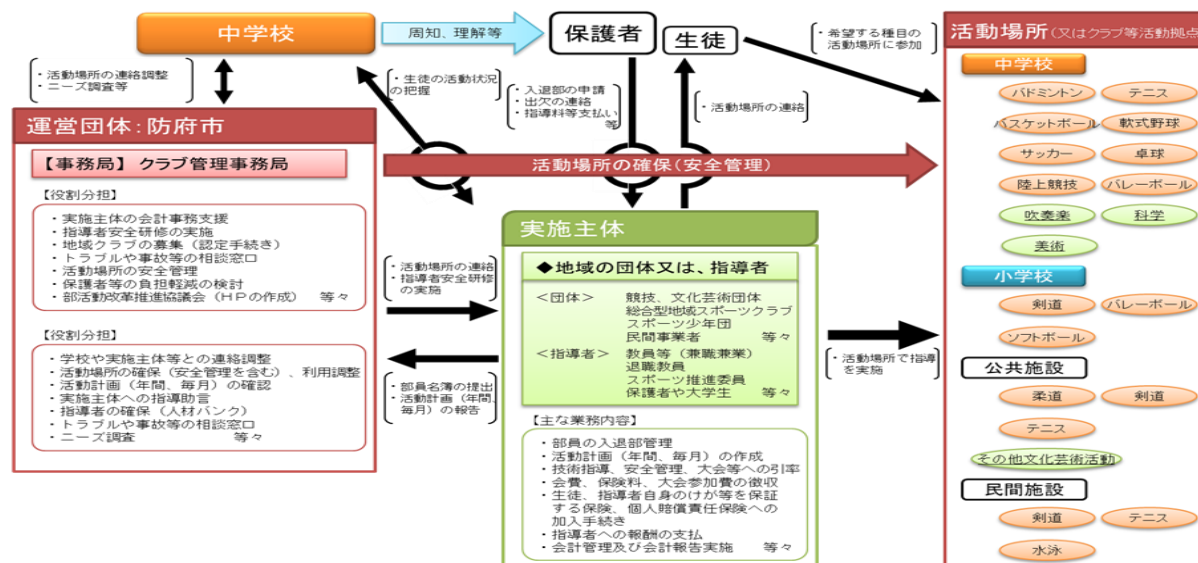
### ●取組事項の概要

- ・令和6年度モデル事業に向け、指導者の資格取得の依頼、活動場所の調整、児童生徒、保護者への周知を行った。
- ・市の方針に基づいて各競技団体との協議を行い、運営団体と実施主体についての役割を確認した。

### ●取組の成果、特に工夫した点等

- ・市内を3エリアに分け、移動しやすさに配慮した活動場所を設定した。市郊外の学校でも地域クラブ活動ができるよう調整している。
- ・各協会からの指導者推薦の依頼。人材バンクの設立。指導者登録方法の簡易化（QRコードでの登録）と周知を行った。
- ・市の方針を作成し、各競技団体と協議を重ねた。実施団体の業務内容や役割を明確にしたことで、理解が深まってきた。

### ●運営体制図



# 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

## 山口県美祢市

### ●地域における現状・課題

- ・少子化（市内8校あった中学校が、令和6年現在は5校まで減少。生徒数は令和元年頃は600名越していたが、現在は430名程度。昨年度市内の出生者数は57名）
- ・生徒数430名内過半数に当たる230名が1校に在籍し、残りの半数以下200名が他の4校へ在籍している。1校は中規模、4校はすべて極小規模校である。
- ・1市2町が合併し、現在の美祢市となっており、広い面積を有しているが、合同練習等で生徒が移動のため利用に適した公共交通機関がほとんどない。

### ●取組事項の概要

- ・令和5年度から7年度を部活動改革推進期間と位置づけ、受け入れの団体や指導者が確保できた競技種目から休日の地域移行を進めていく。
- ・段階的に各競技種目で、休日の地域移行を推進し、令和7年度新チームの活動から学校部活動を終了させ、平日・休日ともに完全地域クラブ活動へ移行する。
- ・令和6年度は休日の活動を地域クラブ活動させることとするが、競技種目によって可能なものは平日も含めて地域クラブ活動とする。

### ●取組の成果、特に工夫した点等

- ・各競技団体、連盟や協会と連携し、今後継続して指導ができる体制づくりを行う。
- ・受け入れ団体や指導者の決定は、種目や状況に応じて時間差が生じるので、すべての競技種目の決定を待たず、確定したものから関係保護者の説明会を開催する。
- ・これまでの中学校の統廃合を通じて、市が多く有するスクールバスを効果的に活用し、休日の活動を可能にしたこと。

### ●運営体制図

#### 競技種目 サッカー

事務局：市教育委員会

- ・指導の調整・活動場所の調整
- ・学校や指導者との連絡調整
- ・業務実態把握、謝金の支払い

指導者：地域スポーツ団体  
・実施団体関係者等地域住民

活動拠点

※ 平日、休日ともに地域クラブ活動として活動

### ●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市運営型（競技団体連携型）
- (2) 運営主体：美祢市サッカー協会
- (3) 種目：サッカー
- (4) 指導者の主な属性：美祢市サッカー協会
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：休日1日、平日2日/週 12日/月
- (6) 主な活動場所：真長田総合グラウンド
- (7) 主な移動手段：保護者送迎、今後休日はスクールバスの活用予定。
- (6) 1人あたりの参加会費等：200円/1回
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円/指導者1850円

# 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

## 山口県周南市

### ●地域における現状・課題

- ・令和8年度に中学校部活動を廃止（生徒数、部活動数の減少、生徒ニーズの多様化に対応するため、中学校部活動を廃止する。）
- ・事業実施体制の整備（本事業を継続して実施するためには、核となる事務局の設置及び担当する職員を配置する必要がある。）
- ・指導者の質の保障・量の確保（資質・能力を有する指導者を確保するためには、バンク制度の構築や研修会の実施に取り組む必要がある。）
- ・関係団体・分野との連携強化（団体バンク等の整備などにより、様々な団体と連携して取り組む必要がある。）
- ・内容の充実（多様な活動を体験できるスポーツイベントの実施など、生徒のニーズに応じた様々な活動に取り組む必要がある。）

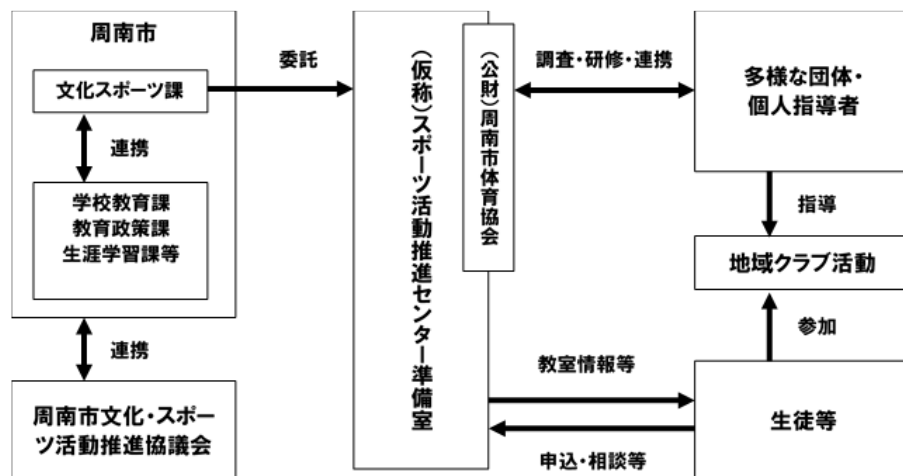
### ●取組事項の概要

- ・事務局準備室の設置、スポーツ団体調査、団体等登録制度の構築、活動情報の収集・発信制度の構築、団体・指導者との連絡調整、指導助言、団体創設・伴走支援、企業等からの寄付・寄贈制度の構築、スポーツ・インテグリティに関する取組の検討、交流及び団体同士の連携の仕組構築等
- ・スポーツ体験教室・スポーツフェスタ・障害者スポーツイベント・多様な社会課題の解決につながる地域活性化事業等を開催

### ●取組の成果、特に工夫した点等

- ・（公財）周南市体育協会内に、スポーツ振興の中核となる（仮称）スポーツ活動推進センター準備室を設置し、開設準備に取り組んだ。
- ・同準備室において、スポーツ団体等の調査、多様なスポーツ団体等々の連携による教室・スポーツ体験会、指導者研修会、シンポジウムを開催した。

### ●運営体制図



### ●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- （1）運営類型：地域スポーツ団体等運営型
- （2）運営主体：公益財団法人周南市体育協会
- （3）種目：体操、バレーボール、野球、ダンス、モルック等
- （4）指導者の主な属性：民間スポーツ教室、スポーツ少年団等
- （5）1か月あたりの平均的な活動回数：月1回程度
- （6）主な活動場所：中学校
- （7）主な移動手段：自家用車
- （8）1人あたりの参加会費等（年額）：500円/年
- （9）1人あたりの保険料：生徒500円以内（参加費に含む）